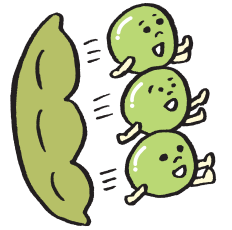




## 枝豆シーズンが待ち遠しい！

新潟市西区のブランド枝豆「くろさき茶豆」。7月上旬の「極早生茶豆」から始まり、「早生茶豆」「本茶豆」「小平方茶豆」「新潟茶豆」「新小平方茶豆」「盆茶豆」、9月上旬の「ぴかり茶豆」まで出荷が続きます。



鮮度を第一に考え、暗く気温が低い時間帯に収穫するとのこと。農家によっては、午前0時頃から収穫を開始するというから、頭が下がります。枝豆につく朝露が鮮度を保ち、気温が高くなる前に、選別・洗浄して出荷されます。

ザルに山盛りの枝豆が食卓を飾る、新潟ならではの光景はまもなくです。今年もおいしい枝豆をつまみに、ビールで乾杯したいですね。

(出典: くろさき茶豆農商工連携協議会 <https://kurosakichamame.com/>)

「Eco列車でいこう！」～第164回～ 慶良間(けらま)ブルーの海へ。

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を照会するコーナーです！)



5月3日(祝)。羽田から3時間。夕刻の那覇空港に降り立った。市内中心部までモノレールで移動して、レンタカーを借りる。少し歩けば汗ばむ気候なのでシーズが肌に張り付く。タコスとオリオンビールを買ってから、うるま市にある「海中道路」近くのゲストハウスにチェックインした。

翌朝の散歩。コンクリートの家、シーサーの置き物、どぎつい色の花々。少しずつ沖縄にいることを実感する。宿のオーナーから「無人島ツアー」に誘われて、船で15分程の島へ行った。シュノーケリングをしたり、島を散策したり、浜辺でまどろんだり…。夜は宿の庭でバーベキューをした。野良猫が「肉をちょうだい」と擦り寄ってくる。のんびりとした沖縄の1日を楽しんだ。

3日目は、那覇港からフェリーで2時間、慶良間諸島の座間味(ざまみ)島へ向かった。ゲストハウスに荷物を預け、渡船に乗り、対岸にある無人島の安慶名敷(あげなしく)島へ行く。

ここの海はすごかった。シュノーケルを付けて海へ入れば、そこは「珊瑚と魚の楽園」だ。透明度抜群の海に多種多様な珊瑚と南国の魚たち。水族館の中を泳いでいるような、もしくは竜宮城に向かっているような…。とにかく今までに体験したことのない世界を堪能した。

夕食は、近くの居酒屋で「海ぶどう」や「カツオの刺身」を楽しんだあと、宿のオーナー手作りのピザとクラフトビールで締めた。

4日目は那覇市内を巡る。国際通りや牧志公設市場を散策し、沖縄の焼き物「やちむん」のそばちょこをお土産に購入した。夜は沖縄民謡の居酒屋へ。「涙そうそう」「花」「島人ぬ宝」などの生演奏を聴きながら、「ラフテー」「ゴーヤチャンプル」などの沖縄料理を堪能した。



住民が出資して運営する「共同売店」



安慶名敷島の透明度は抜群だった



民謡居酒屋。客も店員も踊って楽しんだ。